



さかもと まみ
阪本 麻美

(●校3年)

「すみませんっ阪本先輩
片付けばっかり
させちゃって…」

『いいのよっ
これがマネージャーの
仕事なんだから…』

『それより
練習に集中することっ
次の大会は
あんな情けない結果
残さないでよ?』

私の所属するテニス部は
大会を控えている

皆それぞれの目標や
夢に向かって頑張ってる

よっ

それを支えるのが
マネージャーとしての
私の仕事

頑張ってる皆の姿を
見ているのが
それを支えているのが
私は楽しい嬉しい

大変だけど
●校生活を
部活に捧げてきて
本当に良かったと
思ってる

でも今日は…

金曜日
19:25

「随分遅かったな
阪本」

「無理言わないで…
片付けとか色々
あるんだから」

いつもとは違う
仕事をしなくちゃ
いけない…

『これからは気を付けろよ
私の言う通りにできないと』

『お前もあの部活も
私の思い通り
なんだからな』

『わっ
わかってるわよ…』

『フフッ相変わらず
凄い乳だなw
部員も全員この乳に
釘付けだぞw♡』

『ちよっと！
そんなことまで
するなんて
聞いてないっ！』

ずん

『ラフッ…まさか
家に泊まるだけだと
思っていたのか？』
『お前は、この3日間
私の言いなりだ
言うことが聞けなきゃ
部活は停止だぞ？』

テニス部の大会を前に出された
理不尽な要求…
それはこの週末…2泊3日を
校長の家で過ごすこと

従わなければ
部は活動停止…
皆が楽しみにしていた
大会にも出場できない

『わっ分かった…
さっさと済ませてよね』

『聞き分けがいいな♡
では早速』

『ほほほw
この巨乳を
生で拝める日が
来るとはな♡』

『こんなもの
ぶら下げて
誘いおって♡』

プルン

こんな男の言いなり
になるしかないなんて…
最低の週末

『さあこっちに来い
このエロ乳を使って
まずは奉仕して見せろ♡』

ピン



「そのバカみたいに
デカイ乳が
役に立ったなw」

「ほほう
いいぞ阪本♡
中々うまいじや
ないかw」

胸を使って
アソコをしごくなんて..
ホントに男って
悪趣味で最低

「いいぞっ
そのまま続けろっ
顔で受け止めるよ?」

ブルブル

「ふう♡
中々良い
パイズリだったぞ? w
さあ次は」

「相手になったんだから
これで終わりでしょ!!
何でも思い通りになるとしたら
大間違いだからっ!!」

「調子に
乗らないでっ!!」

「ほう..
私にそんな態度を取るかw
なら理解らせてやるか
自分の立場をな♡」

それから
始まったのは..

終わらない
快楽調教だった…

「フフフッ」
もう全身どこでイってるか
わからんだらうw」

「私の思い通りにならないなら
このまま壊してやっても
構わんのだぞ？」

身動きも取れず
口も塞がれて
体のありとあらゆる所を
刺激されて

「そろっまたイケっ
三度と生意気な
回をきくなよ？」

イカされ続けた

「はっはっはw
何言ってるんのか
わからんぞw」

「ほれっ
言いたいことがあるなら
言ってみろ♡」

もう私には…

カオオオ



次の日の夜には裸より恥ずかしい格好で寝室に呼ばれて……

「アッ、フツッ似合ってる
じゃないかW
アンバランスな
日焼け跡がそそるな♡」
「勝手なこと…
言わないでよ…」

「お待たせ
しました…」

この男に屈するしか
道は残っていなかった…

『おっおちゃん…
上から…失礼致しますっ…』

身体を使った
奉仕を要求された…

!?

「どうした？
さっさと挿れんか」

『だって…ゴムが…』

「ん？コンドームか」

ぷち♡

『うううううはいい…
わかりましたあ…』

「はっはっはw
良い表情だな♡
一晩で私のチ●ポ無し
生きられないメスに
変えてやるからな♡」

「どうなんだ？
聞いてるだろ
阪本っ！」

人生で初めての生挿入……
肉棒で挟えまれるたび
全身に走る絶頂の波に

私は……

下!!

タニ

7-11

タニシ

タニ

$$A = v$$

ター

17/10

タ-

Handwritten signature: *A-1*

耐えられ
なかった…♡

「あんっ♡
この体勢やバいい♡
子宮つつくの
反則うう♡」

「最初は強気で
調子に乗るなつとか
言ってたクセに…」

「すっかりオスを喜ばせる
メス豚になったな♡麻美♡
自分から良い所に当っておって♡」

あひ♡

やあん♡

「らってえ…
こんなの知っちゃったらあ♡
女の子は誰だって
こうなっちゃうのお♡」

「はっはっw
お前が淫乱な
だけじゃないか♡
思ってた通り逸材だったな♡」

「これからも
私の言うことを聞けば
毎晩抱いてやるぞ?」

「私のハメ穴妻になれ♡
麻美♡」

「あああん♡そんなことお
おちんち●ズボズボされながら
言われちゃったら…♡」

「わかりましたあ♡
私阪本麻美はあ♡

旦那様のハメ穴妻として
一生ご奉仕いたしますう♡」

「これからもいっぱい
可愛がってくださいひゃい♡」

その日を境に
私は部活にも…
学校にも行かなくなった…

だって私にはもう
お仕える旦那様の
おちん●んがあるから♡

旦那様あ♡

lov

lov

たっぷりだいて
くりゃい♡















あひっ♡

やあ♡

おっおほ

旦那様♡

たっふりて♡
くっさ♡

lov

lov

フッ♡

えれ、ばっ♡

グッ♡

おっ♡

ハッ♡

ごっ♡

ハッ♡

ハッ♡

ハッ♡

ハッ♡

ハッ♡

ハッ♡